

## 文化・芸術

「柿」

1915年、絹本彩色  
142・0<sup>cm</sup>×49・9<sup>cm</sup>

### 速水御舟 (1894～1935年)

速水御舟は東京に生まれ、14歳から画塾で学びます。10代で異画会で賞を受け宮内省買い上げとなるなど、早熟の画才を発揮します。前年、姓を母方の速水に、号を御舟に改め、以後、この名で40代で生涯を閉じるまで、飽くなき探究心でさまざまな画風で作品を生み出し続けます。

本作は21歳ごろの制作で、今村紫紅を中心に気鋭の若手画家で結成された新たな日本画を探究した赤曜会展出品の作品。縦長の画面を稲妻のように伸びる幹と枝に、赤く色づき始めた柿の実と葉が交差しています。

大川美術館  
日本画コレクションから

秋の訪れを感じさせる果実と葉に鮮烈な赤を用いつつ、その色合いはたらしこみの技法で淡く染まりゆく様子が表現されます。

本作は「秋の彩り―日本画コレクション」で10月8日から展示します。

(大谷)

《名画の扉》

